

光経済研究所株式会社

東京都中央区日本橋人形町 1-18-9 TEL 03 (3669) 2331(代)

証券投資顧問業登録関東財務局長第 557 号 日本証券投資顧問業協会会員 011-00557 号

平成 14 年 4 月 2 日号

ファンドマネージャー 出来岡 潔

<http://www.hikarikeizai.co.jp>

今回は、長期間にわたって下げ続けた相場が底を打ったら、初動の上げ幅をそのまま初動の高値に上乗せする E 計算値が目標値になることが多いとご説明しました。(3月26日号のレポート参照)

この E 計算値を別名、**二層倍**といいます。この二層倍の層には地質学的な意味があるようです。すなわち、山を上から下に切って地表を見ると、**いくつもの層が積み重なっていることがわかります。**

株もこれと同じだという考え方です。(6985)ユーシンのチャートをご覧ください。つまり、昨年 12 月 21 日安値 **305** 円から 12 月 28 日高値 **367** 円までの初動の上げ幅 **62** 円を**一つの層**と考えるわけです。その上に**全く同じ層を一つずつ積み重ねていくと目標値**になります。

要は、**305** 円から **367** 円まで **62** 円上げたのですから、その **62** 円を **367** 円に足すと、全く同じ層が一つ重なって二つになったことになり、したがって**二層倍**というわけです (**E 計算値**)。

さらにその上にもう一つ同じ層を重ねると**三層倍**、もう一つ重ねれば**四層倍**、これがいずれも目標値です (チャート参照)。

このように初動の上げ幅と全く同じものを一つ一つ積み重ねたものが目標値になると覚えておいて下さい。

(無料テレホンサービス)やさしいチャート教室 03 - 3669 - 5552)

